

緊急避妊薬（レボノルゲストレル 1.5mg 錠） 服用者向けの説明・同意書

「あなたに知っていて欲しい緊急避妊のこと」

・緊急避妊とは、避妊をしないでの性交渉や、避妊具が破けるなどの失敗が起こった場合等に、妊娠の可能性を高確率で防止する方法で、その最も一般的なのが緊急避妊薬と呼ばれるものです。すべての緊急避妊法は、数日以内に行われなければなりません、大抵の女性にとって有効で安全な方法です。（緊急避妊法の適正使用に関する指針 日本産科婦人科学会）

・どのように緊急避妊薬を服用するのですか？

性交渉後 72 時間以内（3 日以内）にできるだけ速やかに 1 錠服用して下さい。時間経過とともに妊娠阻止率は低下するため、72 時間（3 日）が既に経過していた場合、緊急避妊薬の服用効果は期待できません。

・緊急避妊薬の成分は？

緊急避妊薬も、避妊目的で使用する経口避妊薬と同様のホルモン剤を、緊急避妊薬の用途として使用する方法です。

・どうして、緊急避妊ができるのですか？

月経周期のどの時期に緊急避妊薬が服用されたかによって作用が異なりますが、排卵抑制作用、受精阻害作用、受精卵の着床阻害作用などいくつかの作用が考えられます。受精卵の着床後（妊娠成立後）に緊急避妊薬の内服をしても妊娠は阻止できません。

・安全性は？

安全で有効性の高い緊急避妊薬として国内で承認されています。

・副作用は？

頭痛、眠気、めまい、倦怠感、不正性器出血、消退出血、月経不順、悪心、腹痛、嘔吐、乳房緊満感などが起こることがあります。これらの副作用は 24 時間程度で改善していくことが多いです。

【服用後の注意事項】

緊急避妊薬を服用した後に再度避妊に失敗した場合、もう一度服用していただく必要があります。また、緊急避妊薬服用後に吐いてしまった場合も、再度服用していただく必要があります。ただし目安として、服用後 2 時間を経過しての嘔吐であれば吸収されているとされています。ご心配であれば医師に再度ご相談して下さい。妊婦には使用できません。授乳中の方は、服用後 24 時間は授乳を控えてください。

本剤は完全に妊娠を阻止するものではありません。また、本剤は、避妊措置に失敗もしくは避妊措置を講じなかった性交後に緊急的に用いるものであり、通常の経口避妊薬のように計画的に妊娠を回避するものではありません。

最後に、緊急避妊薬が本当に効いたかどうかは、服用後すぐにわかるわけではありません。不正性器出血や妊娠初期の出血を月経と区別できない場合もあります。万が一、緊急避妊薬を服用したにもかかわらず妊娠してしまった場合、本剤の服用により生まれた赤ちゃんへ

悪影響を及ぼすという報告はありません。

【緊急避妊と性感染症の関係について】

緊急避妊で、エイズを始めとした性感染症（梅毒、淋病、クラミジア、ヘルペスなど）を予防することはできません。心当たりのある方や感染していないか心配な方は当院へご相談ください。

【治療に注意が必要な方】

下記の疾患がある方、薬剤を使用中の方は医師の判断によって治療を受けられない場合があります。

使用できない患者

本剤の成分に対して過敏症の既往歴がある女性 重篤な肝障害のある患者 妊婦
慎重投与の患者

肝障害・心疾患・腎疾患またはその既往歴のある患者 セイヨウオトギリソウ服用

抗けいれん剤（フェノバルビタール、フェニトイン、プリミドン、カルバマゼピン）

抗 HIV 薬（リトナビル、エファビレンツ）、 抗結核薬（リファブチン、リファンピシン）

私は服用にあたり、緊急避妊薬の効果や注意事項ならびにその副作用について十分に説明を受けました。また、緊急避妊薬を服用しても必ずしも妊娠を回避できるわけでないことを理解いたしました。上記事項について説明を受けこれを理解し確認したうえで、緊急避妊薬の処方をお願いします。

【患者さまの署名欄】

同意日： 年 月 日

最終月経 令和 年 月 日から 日間（わかる範囲でご記入ください）

性交日時 令和 年 月 日 時頃（月経周期の 日目）（わかる範囲でご記入ください）

患者署名：

代諾者署名： （続柄）

（※代諾者；患者本人に同意能力がない場合、未成年の場合は親権者、成年の場合は親族が代諾者として説明を受け署名を行う）

【担当医師の署名欄】

説明日： 年 月 日

私は、上記の患者さまに、この緊急避妊薬について十分に説明を行いました。

渋谷内科・スキンケアクリニック

担当医師署名：